



Q

鶴ヶ島をもっと住みよい街に

おおそねひであき
大曾根英明 議員



A

鶴ヶ島のいいところを総合計画に盛り込んでいく

問 子育て支援について。すべての子育て家庭への支援、仕事と子育ての両立支援、きめ細やかな子育て支援サービスの充実、子育て支援と連携した母子保健の充実という4つの目標をバランスよく総合的に推進していくことが重要であると考えている。

問 高齢者・女性への支援について。

答 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らしてもらうため、介護予防や生きがいづくり等に取り組んでいる。女性への支援については、女性活躍応援事業を実施し、女性の起業に向けた支援や再就職に向けた支援に取り組んでいる。このほか、女性を取り巻く問題等に関する相談業務を行っている。公共施設の安全性について。

答 公共施設の安全を確保するため、鶴ヶ島市公共施設保全計画に基づき、市の将来を見据えながら計画的に公共施設の安全管理に取り組んでいく。

問 市道管理について。

答 市道を常時良好な状態に保ち、道路の管理瑕疵による事故を未然に防止するため、市道の総点検を毎年5月に行っている。また、日常的に職員による道路パトロールや市民からの情報提供に基づき、随時、道路修繕を行っている。



市役所庁舎

Q

第6次鶴ヶ島市総合計画策定に向けて

ごでんぎたかゆき
五伝木隆幸 議員



A 持続可能なまちづくりが必要である

問 年齢構成からみた本市の現状分析について。

答 年少人口及び生産年齢人口割合が低下している一方で、老年人口割合が急増している。

問 これまでの本市の「社会的増減」と「自然減」について。

答 昭和55年度には最大4273

人の転入超過を経験したが、平成5年度には転出超過となり、その後は、おおむね社会減となっている。自然動態では、昭和の頃から平成25年度までは出生が死亡を上回る状態が続いたが、26年度に初めて死亡が出生を超え、自然減となった。

問 将来の人口推計について。

答 最新の推計データ等でも、当面の人口減少は避けられないものと考えられる。

問 策定の基本方針にある「時代に即した適切な将来像」とは。

答 次は人口減少を前提とする初めての総合計画となる。人口減少と高齢化の中で、今後の本市の人口や財政規模を見据えた持続可能なまちづくりが必要である。また、生産年齢人口の急減の中、市の活力の維持向上には、高齢者の就業や社会参加の基盤となる健康寿命の延伸等が重要になる。社会状況に加え、市民や議員等の意見を踏まえて将来像を設定したい。